

令和7年度（2025年度）厚生常任委員会管内視察の概要

- 1 視察日 令和7年（2025年）8月22日（金）
- 2 視察者 厚生常任委員会（6名）
岩本浩治（委員長）、荒川知章（副委員長）、岩下栄一、
岩田智子、亀山英雄、立山大二郎

3 視察の概要

（1）社会福祉法人 熊本県くすのき園（宇城市）

くすのき園は、就労継続支援B型事業所で障がい者の方々に対し、社会参加と自立に必要な生活支援及び作業訓練を実施しながら、その目的に沿ったサービスを提供している。

熊本県の特産である「い草」を使用した小物製品の製作や、自動二輪車部品の簡単な組立て作業も行っている。

今回の視察では、障害者就労支援施設の運営や生活介護事業の説明を受け、説明後に施設の見学をした。

同園から、利用者の高齢化が進んでおり、通院回数も増えている、また、B型事業所の利用者も高齢化しているため、効率的な生産体制の確立が必要である、また、入所者の居住施設は多床室のため、個室化にすることを進めたいとの説明があった。



（2）希望の里ホンダ株式会社（宇城市）

希望の里ホンダは、熊本県・宇城市・本田技研工業株式会社の共同出資により、自動車メーカーでは、初の第三セクター方式で設立された心身障害者雇用事業所であり、本田技研工業株式会社の特例子会社である。

安心な職場づくりを進めながら、障がいのある人と健常者が分け隔てなく、二輪車・四輪車・汎用製品の部品組立てや印刷などの業務を行っている。

また、年間休日121日（2024年度実績：年3回の大型連休有り）、有給休暇取得率100%、その他福利厚生充実により働きやすい環境を提供している。

今回の視察では、心身障害者雇用事業所の施設整備や運営について説明を受け、説明後に施設を見学した。

同事業所から、福利厚生の更なる充実を推進しており、心身ともに健康であるために選択型福利厚生制度を導入して、1年間で一人当たり2万円を限度として、ジムに通う費用や映画鑑賞費等を支給している、また、障がい者の特性の理解を深め、適切なコミュニケーションを図るため、障がい特性セミナーを行っているとの説明があった。



(3) 社会福祉法人 光明童園（水俣市）

光明童園は、様々な事情により家庭で生活することができない児童を預かり、将来、社会の一員として自立できるように援助し、退所後の自立支援を行っている。

平成17年9月から、地域に一軒家を借りて「和光ホーム」を開設し、その後、現在まで7軒のグループホームを運営しており、家庭的な雰囲気을大事にし、それぞれの子どもたちに合った個別の支援を心がけている。

今回の視察では、児童養護施設の役割と概要説明について説明を受け、説明後に施設を見学した。

同園からは、児童虐待や子どもの貧困の原因には、子育ての孤立化があるため社会全体で子どもを育むことが必要、経済的な貧困はつながりの貧困と複雑に絡み合っている、また、施設を退所した後も支援とつながりが必要であると説明があった。

